

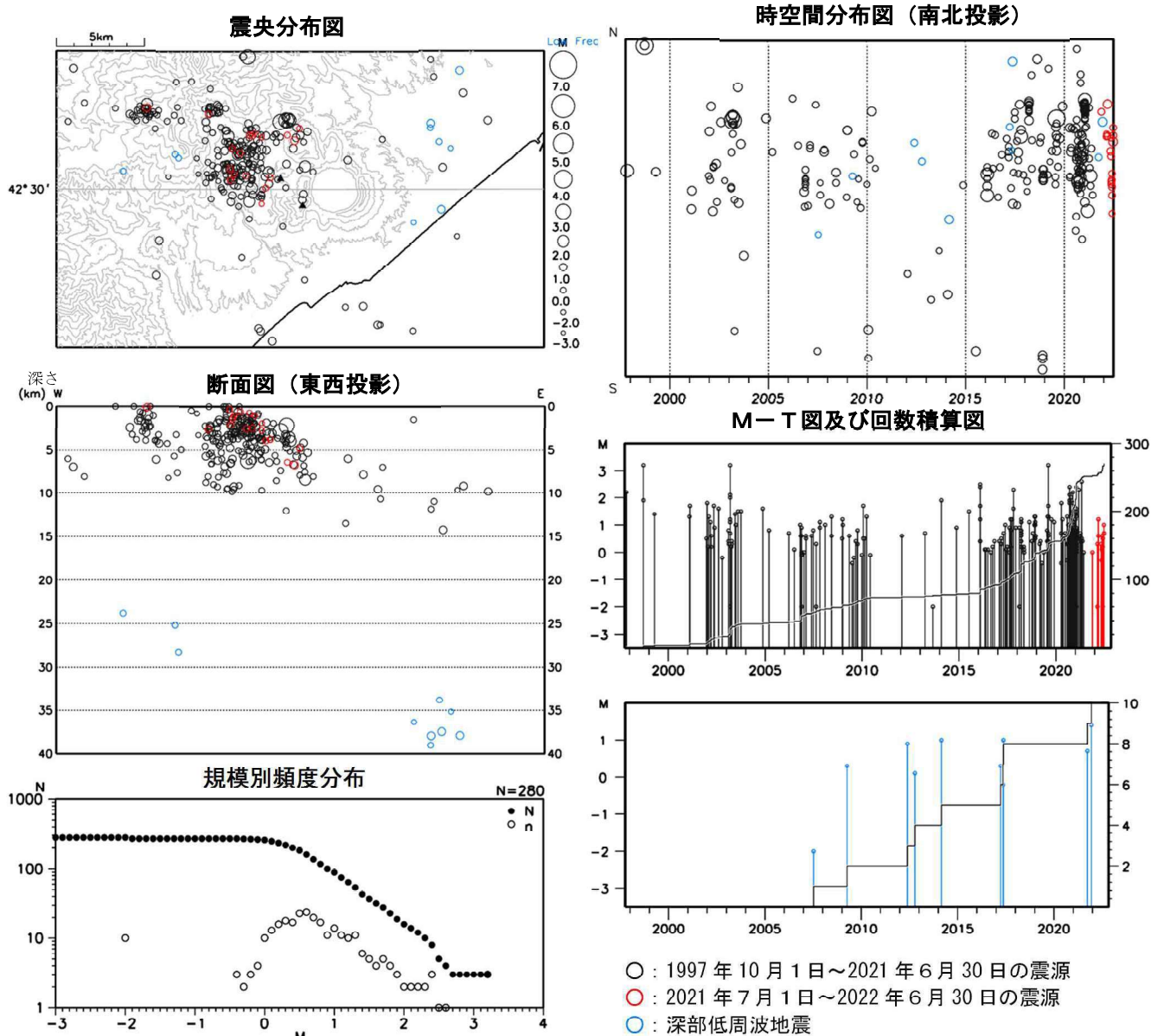


図6 倶多楽 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震  
(1997 年 10 月～2022 年 6 月、深さ 40km 以浅)

規模別頻度分布より、 $M0.7$  程度以下の地震は過少に計数している可能性があります。

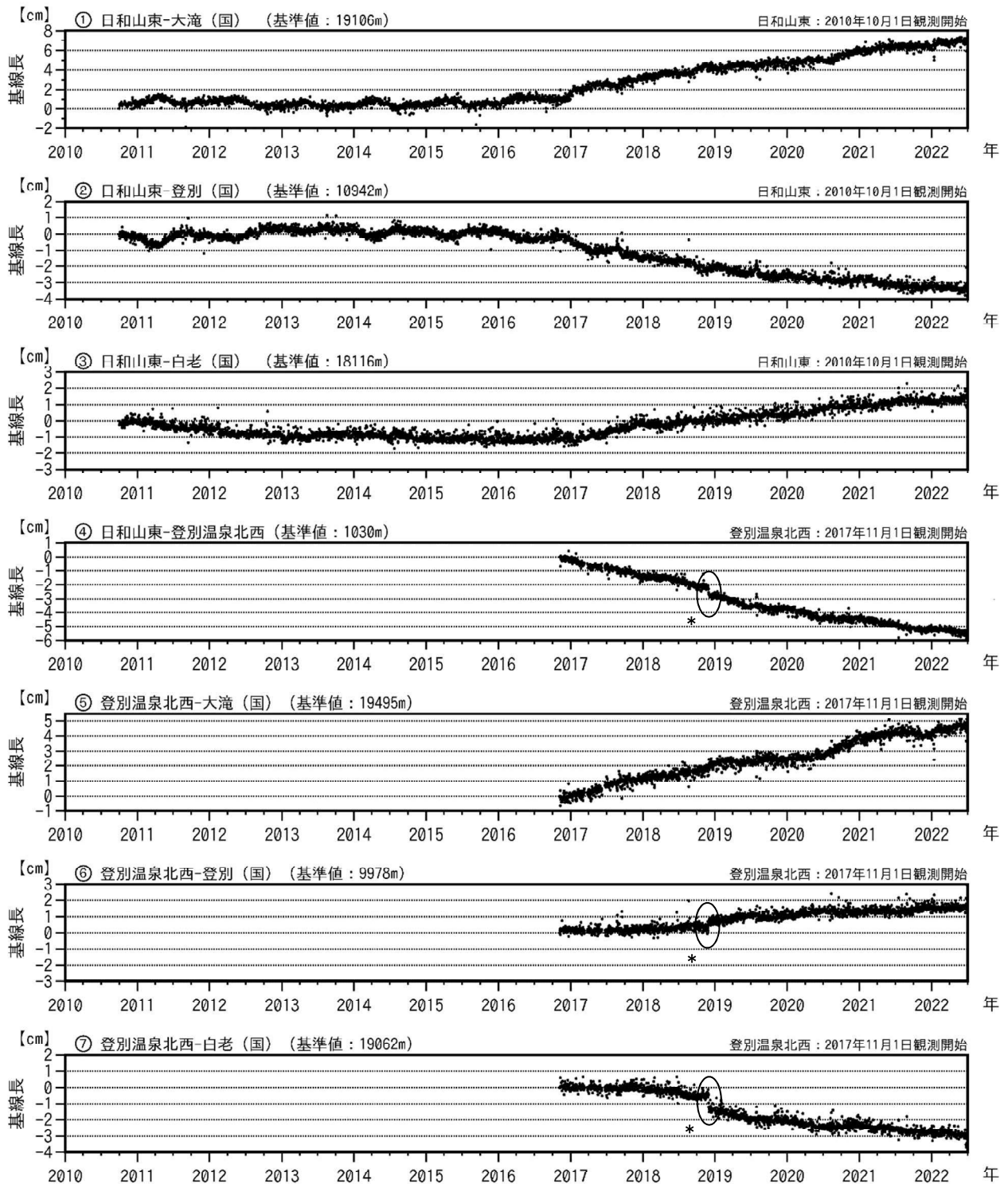


図7 倶多楽 GNSS 連続観測による基線長変化（2010年10月～2022年6月）

グラフ①～⑦は観測点配置図（図8）の基線①～⑦に対応しています。

④、⑥及び⑦の楕円内の変動（\*）は、登別温泉北西観測点の局所的な動きによるものと考えられます。



図8 倶多楽 火口想定域（倶多楽噴火警戒レベルリーフレットから引用）  
([https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/level/PDF/level\\_111.pdf](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/level/PDF/level_111.pdf))

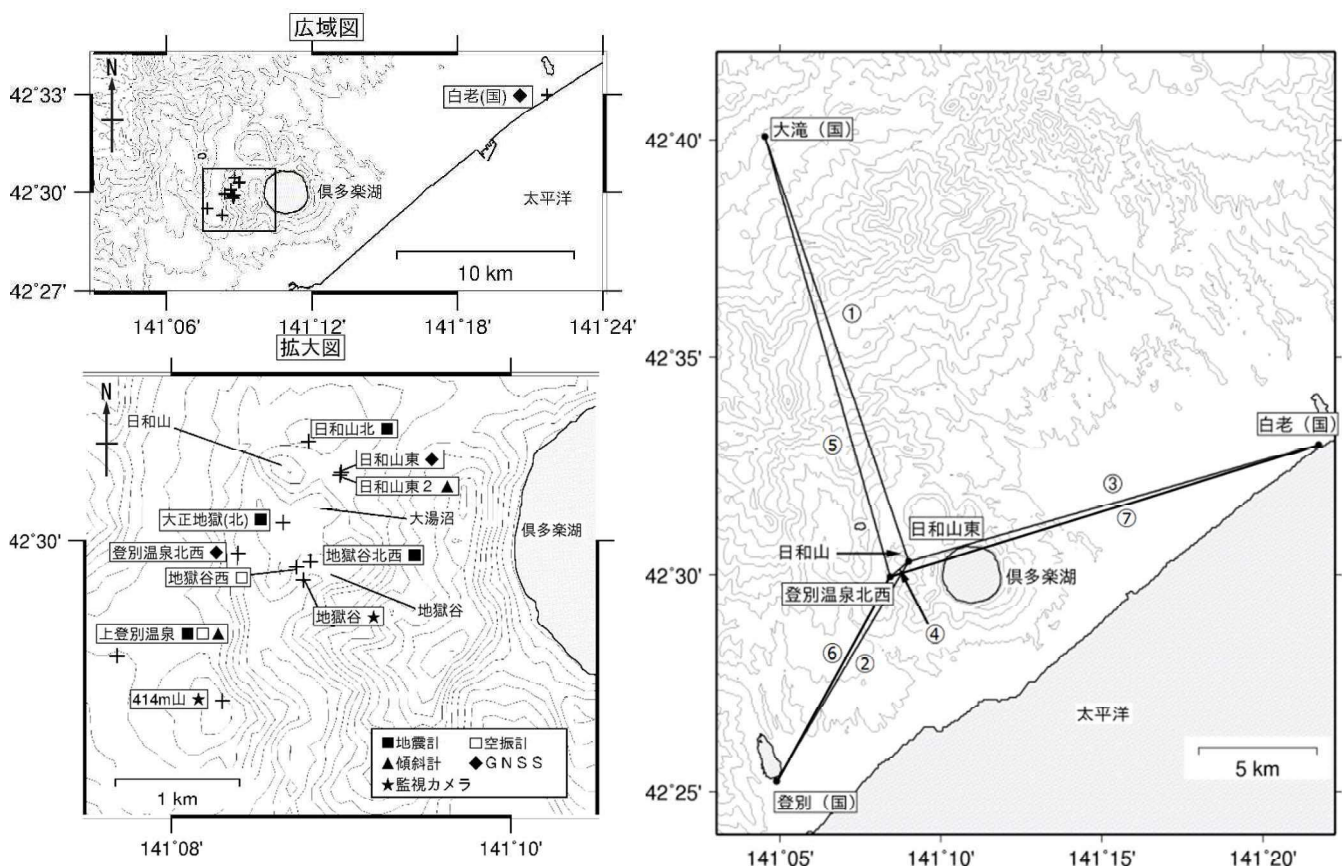


図9 倶多楽 観測点配置図

広域図内の太枠線は拡大図の範囲を示します。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学